

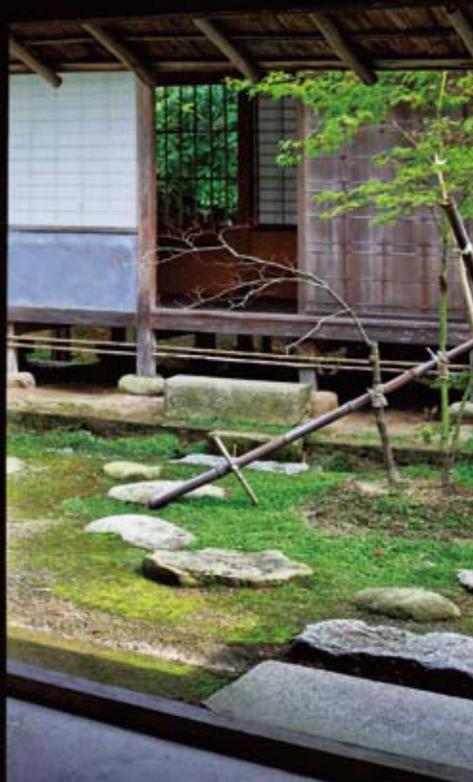


ShiBaTa-Bi
Tour Guide Book for
Shibata-city

新発田

シバタ・ビ

新発田市観光ガイド
しばたの日々・しばたの旅・しばたの美



城下町、新発田。 いまでも、安土桃山・江戸時代の 記憶を刻む 武家カルチャーの磁場。

オラがお殿様といえば、上杉謙信に仕え、景勝との関わりのおかげで果てた新発田重家侯。
江戸城にもひけをとらぬほど見事な新発田城を築城した、
名君の誉れ高い初代藩主、溝口秀勝侯。
凛とした武士道の美意識は、いまでも、新発田城をランドマークとして、
往時の道筋や建物に連綿と守り継がれています。
街まるごと歴史文化の磁場。
旅心も、きっと、引き寄せられる新発田です。



上 / 本丸表門・旧二の丸隅櫓
(国指定重要文化財)

左 / 平成16年(2004)、全国
唯一の三匹の鯉を配した三階
櫓と辰日櫓を忠実に復元。

新発田は秀勝侯の 都市計画から始まった。

慶長3年(1598)に加賀大聖寺から入封した初代藩主・
溝口秀勝は、まず五十公野に居をかまえ、領内の統治と
築城の構想を練ったと伝えられます。天正15年(1587)に
果てた新発田重家の城跡を取り入れて新たな城を構築。
3代藩主・宣直の代に完成した城は、周辺の地勢、湿田湿
地をいかした自然の砦。秀勝侯はすぐれた都市計画プラン
ナーでもあったわけです。新発田城はその後の大火で
櫓などを消失するも、そのつど修復されながら現在の姿
に至っています。平成18年「日本百名城」に認定。

☎0254-22-9534 新発田市教育委員会生涯学習課
■新発田市大手町6(市街地マップ)



新発田城乾板写真

新発田城は戊辰戦争後、明治五年に取り
壊された。右写真は、明治初期、写真師・
丹後寛一郎により撮影されたものである。
所蔵:齊藤平市・れい 撮影:丹後寛一郎

時の武将の心を癒したのは、
こんな桜だったかもしれない。



写真提供:加治川商工公社(「しばたの桜」写真コンクール)入選作品)

大峰山の椽平桜樹林へサクラ・ハイキング

千本のヤマザクラ、繚乱

自然交配のヤマザクラ40種類1000本が群生する「椽平(とちだいら)桜樹林」(昭和9年、国天然記念物に指定)は、それはそれは見事なお花見が楽しめるスポット。新発田の北に位置する日本一小さい山脈・楡形山脈(南北約14km)の大峰山(標高399.5m)にあります。とりわけ開花シーズン(4月下旬～5月上旬)の遠景が美しく、大峰山登山道の本松展望台からの眺めが、とくにおすすめ。大峰山周辺は、中部北陸自然歩道としてハイキングコースが整備され、3時間程度で一周できる低山ですから、小学生や年配女性でも気軽にトレッキングを楽しめます。一带は、桜のほか山野草や野鳥も多く、癒しを求めて訪れる女性ファンの人気急上昇しています。



広がる絶景、晴天時には佐渡まで見渡せます。



大峰山の麓にホタルが乱舞

「大天城公園」に隣接する市道が、夕涼みがてら散歩したい「ホタル舞道(マイロード)」。住田地区ホタル保護研究会などの手によって、観察会やホタルコンサートも開催。

さんさく大峰山・山さくらの道



自然遊歩道コース案内



法印瀑(ほういんばく)

大峰山撮影:板垣一寿



ツグミ



自然の宝庫、大峰山

私達加治川山の会は、大峰山登山道の整備をしています。ここは低山で桜もきれいなことから、登山に慣れていない初心者も多く訪れます。なるべく危険がないよう、倒木を取り除いたり、気持ちよく登れるよう雑草を刈ったりしています。気楽に楽しめる大峰山へ、ぜひ、お越しください。

加治川山の会・会長
渋谷 忠治さん



Column

ここは
いつでも
桜の花盛り



オクチョウジ系



ヤマザクラ系



オオヤマザクラ系



カスミザクラ系

椽平桜樹林(国指定天然記念物)と金山城遺跡(国指定史跡)に隣接する「桜公園」は、世界の桜109種類が植栽されています。現在は、11月から6月まで観桜ができ、葉と桜、雪景色と桜、そんな不思議で幻想的な風景にも出会えます。

Column

山岳
手打ちそば
一寿



アスパラガスの天ぷら(季節限定)

地産そば粉の「三立」蕎麦、地元特産アスパラガスの天ぷらなど、主人が情熱と真心と試行錯誤で提供する、こだわり蕎麦の店。店内には写真ギャラリーがあり、大峰山の情報やマップも店でもらえます。





鳥居の向こうに、
いにしえの新発田を見つけた。

溝口秀勝、新発田重家の時代よりも、遙か昔。五十公野は神々や仏が降り立つ場所と考えられていました。けもの道、草いぎれの参道、多くの寺社仏閣、祈り。新発田の始まりがここにあります。右 / 五十公野下新保、登り口を上ると神明神社があり、5月になると昔ながらのお祭りが現在も続いています。



日本四大あやめ園

五十公野のあやめ

五十公野公園あやめ園は、日本四大あやめ園のひとつに位置づけられ、面積1.8ヘクタールの敷地に300品種60万本のあやめ(花菖蒲)が咲き競います。まつり期間中の夜間には、ライトアップが行われます。見頃は6月中旬～7月上旬。

- ☎0254-22-3101 新発田市地域整備課
- 新発田市 五十公野4449 (市広域マップ④)



国指定名勝

五十公野御茶屋

新発田から津川をぬけて会津若松へと続く会津街道は、その先、白川を通過して江戸へと続き、幕府は五街道に次いで重要視していました。新発田藩主溝口家は参勤交代の際、街道筋の「五十公野御茶屋」で旅支度をしたとか。文化11年(1814)に再建された建物は数寄屋造り、回遊式庭園は「清水園」同様、幕府の茶道方でもあった縣宗智(あがたのそうち)による設計。

- 開館時間:午前9時～午後4時30分
- 休館日:月曜日(祝日の場合翌日) 12月～3月は閉館
- 入館料:無料
- ☎0254-22-9534 新発田市教育委員会生涯学習課
- 新発田市五十公野4926 (市広域マップ④)



五十公野城址
新発田重家が新発田城へ戻り、五十公野城を継いだ重家の妹婿・五十公野道如齋の終焉の地。天正15年(1587)10月13日、上杉景勝との激しい攻防の末に落城。本丸跡に石碑が置かれています。



溝口侯をしのぶ家紋や板絵

豊田神社

溝口氏累代の霊を祀る神社。溝口家の家紋「五階菱」が屋根に見てとれます。神社の中には、往時の新発田城に飾っていた「板絵」が保存され、歴史資料や美術品としても興味深いものです。毎年6月中旬に神社の例大祭を開催。



カラコロと湯あがり散策が似合う越後の奥座敷



美人になれるとウサの、美肌成分日本一の湯 その湯七変化、月岡温泉

のどかな田園風景にある「月岡温泉」は、大正6年(1917)、石油掘削中の井戸から湯が湧出、そこに建てられた湯小屋(共同浴場)が始まり。それ以前、さぎが湯につかりケガを治した“さぎの湯伝説”も残っています。日によってエメラルドグリーンや乳白色などに变化する湯は、豊富な硫黄成分で肌をツルツルにしてくれます。気軽に楽しめる足湯「湯足美(ゆたび)」も。

- ☎0254-32-3151 月岡温泉観光協会
- 新発田市月岡温泉(市広域マップ⑤)
- <http://www.tsukiokaonsen.gr.jp>



冬の風物詩「どん祭り」
毎年2月第3日曜日の「どん祭り」では、温泉旅館に欠かせない井桁に祈願成就の願いを込めて点火します。炎と雪の幻想的な世界に、ぜひ、おいでください。

月岡温泉旅館組合・月岡温泉観光協会
左から 円山 キミ子さん、渡辺 はるみさん、渡辺 好子さん

【泉質】含硫黄—ナトリウム—塩化物温泉(弱アルカリ性低張性高温泉) 泉温:50.7℃
【効能】腰痛、神経痛、関節痛、四十肩や五十肩、冷え性の改善など



刀剣作家
人間国宝
天田昭次

カリオン文化館

もっとも質にすぐれた刀剣は、蒙古襲来の鎌倉期。その当時の名刀をめざし、生まれ故郷の新発田市月岡を拠点に、稀有な自家製鉄からおこなっているのが人間国宝・天田昭次。現代刀の最高峰である「正宗實」を3度も受賞。先人が遺した文化遺産、刀剣に魅入られた名刀などを館内で観賞できます。新発田城三階櫓・辰巳櫓の復元完成を記念して制作された太刀も展示。(入替あり)

- 開館時間:午前9時～午後5時
- 休館日:水曜日(祝日の場合翌日) / 年末年始(12月28日～1月3日)
- 入館料:一般350円 小・中学生150円
- ☎0254-32-1121
- 新発田市月岡温泉827(市広域マップ⑥)



撮影・著作:小岸田



風雅邸宅
回遊庭園
美術調度

市島邸(新潟県指定文化財～12棟1構～)

溝口侯の新発田移封に伴い、加賀大聖寺から随従、やがて豪農となった市島家。明治初期の風雅な建物、回遊式の庭園、市島春城・會津八一ゆかりの品など、市島家の往時の繁栄ぶりを伝える品々が展示されています。

- 開館時間:午前9時～午後5時(12月～3月 午前9時～午後4時30分)
- 休館日:水曜日(祝日の場合翌日) / 年末年始(12月28日～1月3日)
- 入館料:一般600円 小・中学生300円
- ☎0254-32-2555 ■ <http://www.ichishimatei.jp>
- 新発田市天王1563(市広域マップ⑥)



自然満喫
美観渓谷
穴場空間

剣龍峡

新緑や紅葉に彩られる渓谷美がすばらしい剣龍峡。もともと地元の人々はこの山に“山神様”が居ると敬ってきました。ここを訪れた天才庭師・田中泰阿弥(たなかたいあみ)は、6つの大きな穴があるのを発見し、「まさに剣龍が通った跡のようだ」と自然美に感動したことから、以後、剣龍峡と呼ばれるようになったといわれています。

- ☎0254-22-3101 新発田市観光振興課
- 駐車場10台
- 新発田市荒川地内(市広域マップ⑨)



海水浴、森林浴、温泉浴。
ほ〜っとできる、総天然別天地。



県立紫雲寺記念公園 オートキャンプ場

海に向かって一列に並ぶキャンプサイトはとても開放的で、とくに日本海に沈む夕陽は息をのむ美しさです。ゆとりのサイト(一区画10m×10m)は各区画にAC電源を装備。炊事棟、水洗トイレ&温水シャワーのサンタリー棟などの設備が、どの区画からも近く快適。

- 6月頃～10月上旬頃(要問合せ)
- ☎0254-41-1010 オートキャンプ場管理棟
- 藤塚浜(市広域マップ①)



思わず歓声のあがる楽しい体験もよし。開放感いっぱいの風景をのんびりと眺めるもよし。

日本海をのぞむ温泉&スポーツの健康増進施設

深層湯温泉 紫雲の郷

淡黄褐色透明で塩辛い湯は、地下1,330mから湧き出る深層湯。打たせ湯付きの大浴槽、ジャグジー風呂、水風呂、サウナ、一枚岩をくりぬいた露天風呂などがあります。また、館内には温水プールや体育館、敷地内には多目的運動広場もととのっています。気軽に日帰りで、ゆっくり泊まって、お楽しみ充実の「紫雲の郷」へ。

- 【泉質】ナトリウム—塩化物強塩温泉 泉温:51.7℃
- 【効能】腰痛、神経痛、関節痛、四十肩や五十肩、冷え性、慢性消化器疾患の改善など



- 開館時間:午前10時～午後9時
- 休館日:第3木曜日(8月は無休)
- 料金:大人700円 小人400円
- ☎0254-41-1126
- 新発田市藤塚浜966(市広域マップ①)

新潟県立紫雲寺記念公園マップ



みんな藤塚浜海岸が大好き!

藤塚浜海岸には、海水浴場やキャンプ場におおぜいの人が来て、とてもにぎやかです。春はハマナスの花が咲いて、夏は楽しい水上花火、秋の静かな浜辺、冬の力強い波。どれも大好きです。この浜辺を教室にして、1年生を迎える会や音楽会、マラソン大会などをします。日本海の潮の香りで深呼吸すると気持ちいいです。



本間 さくらさん 小林 爽子さん



Column

紫雲寺 さえずりの里 愛鳥センター

約100種類の野鳥を観察できる探鳥路。地元のブナ林を模したジオラマ。保護された野生鳥獣の治療、回復訓練をする飼育舎には、めずらしい白いカラスも。

- 開館時間:午前9時～午後4時
- 休館日:月曜日(祝日の場合翌日)
- 入館料:無料



Column

紫雲寺 記念公園は 花でいっぱい



ソメイヨシノ、レンギョウ、チューリップ、めずらしい白いハマナス、ローズマリー、バラ、コスモス、ヤブコウジの可愛い実など。さまざまな花の中で、「チューリップ球根掘り取り隊」「公園バードウォッチング入門」「花炭づくり体験」などのイベントもいっぱい。



体感して、高揚して、共有したくなる熱気



藤塚浜海水浴場で行われる城下町新発田まつり海上花火。

280余年の歴史、城下町ならではの神事祭礼

城下町新発田まつり

鎌倉時代にこの地を領した佐々木氏は、諏訪神社を深く崇敬したと伝えられます。豊臣秀吉の命により、慶長3年(1598)に加賀大聖寺から入封した初代藩主・溝口秀勝は諏訪神社の崇敬が厚く、3代宣直、4代重雄の時代に社殿の修築普請がおこなわれます。享保11年(1726)、6代直治が「諏訪神社の神事祭礼の際、にぎわいとして飾り人形の屋台を出すように」とおふれを出したことから、城下あげでの盛大な藩祭りの儀、現在のような「新発田まつり」になったといわれています。

■8月12日～29日
■☎0254-26-6789 新発田市観光協会
■諏訪神社及びその周辺

◀御殿風二階造りの屋台の、前輪を持ち上げては下ろす繰り返りを繰り返す、台輪が勢いを競うところが特徴的。

チビっ子たちは 金魚台輪

金魚のかたちをした台輪。殿様から、子ども向けの玩具を作るようにと言われたのが始まりとも言われています。まつりの期間中、子ども達がひっぱって自分の町内をひと回りします。うねうねぞろぞろ、金魚台輪をひいて歩く子ども達の晴れ姿を、行く先々の玄関で、お年寄りなどが笑顔で待ちます。昔と変わらない夏の風物詩です。可愛い金魚台輪のミニチュアは、おみやげ品にもなっています。

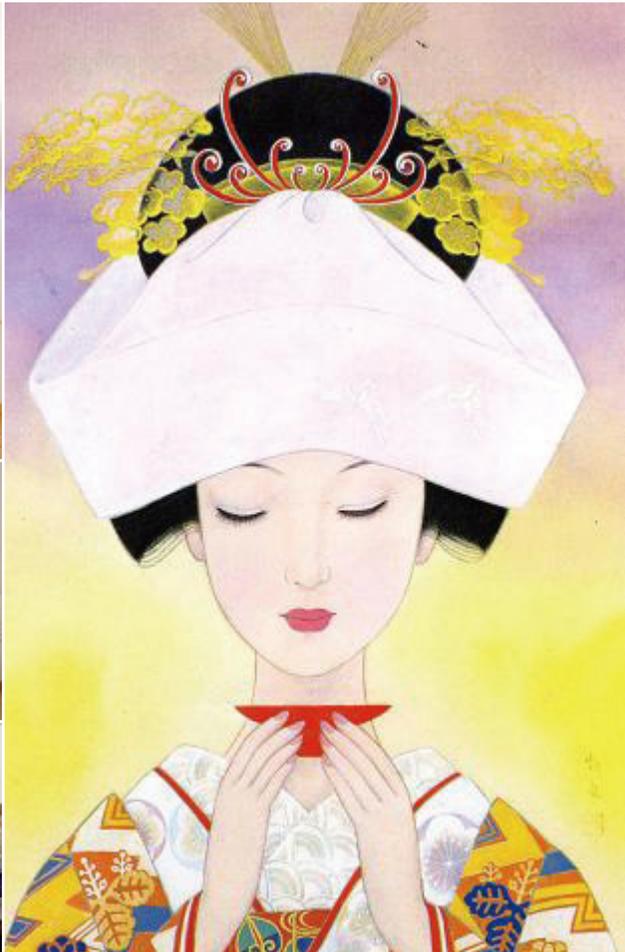


Column

出店と
まつりの定番
蒸気パン

まつりといえば、楽しみのひとつが出店。「新発田まつり」には、ちょっとレトロな感じが健在です。新潟市と県の北部だけのB級グルメ的「蒸気パン」は、素朴な黒砂糖風味のほんのり甘いスティック状の菓子。これだけは必ず買う、と楽しみにしているひと。





落谷 虹児「花嫁」



佐野 常一郎「新発田俯瞰乃図」



佐藤 哲三「椿」



松田 天次「加治川の桜」



萩巻 悌二(松蔭)「道子」



高橋 信一「朱鷺」



高橋 美則「真木山夕月」



長谷川 武雄「新発田尋常高等学校校舎」

KOJI FUKIYA memorial museum of art

大正・昭和の浪漫モダニズム 落谷虹児

戦前の少女ロマン雑誌の挿絵などで有名な落谷虹児は、新発田が生んだ多才なアーティスト。画のほかにも図案デザインや作詞などを手がけました。詩画の代表作「花嫁人形」は、若くして亡くなった美しい母がモデルといわれます。ロシア正教会風の外観は、周囲の空間とマッチして街中に美しい景観をつくりだしています。

- 開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日:毎週月曜日(祝日の場合翌日)12月29日～1月3日
- 入館料:一般500円 高校生200円 小・中学生100円
- ☎0254-23-1013
- 新発田市中央町4-11-7(市街地マップ①)

落谷虹児オリジナルグッズ▶
<http://www.fukiyakoji-museum.com>
デザインはタイクーングラフィックス
鈴木直之



◀細野稔人の「五月の光」が来館者を迎えてくれる。



新発田の街そのものがギャラリー

知と美のアートタウン

豊かな北蒲原の自然、成熟した武家文化、自由闊達な気質。それらが相まった新発田には、感性をはぐみ、知と美を尊ぶ土壌が昔からありました。市が所蔵する絵画・彫刻・工芸・書道・屏風を紹介するイベントなどが随時開催されています。

新発田はアートのまち

新発田市は、落谷虹児、佐藤哲三を始め、多くのすぐれた画家を輩出しています。その多くの画家の作品は、新発田市で所蔵されています。市所蔵の約800点の作品を整理し、今後もアートコレクション展を企画していく予定です。

新発田市文化団体連合会 会長 臼井 茂夫さん



Column

表紙デザインは
タイクーングラフィックス
鈴木直之

1964年 新潟県新発田生まれ。1982年 新潟県立新発田高校卒業後、東洋美術学校でグラフィックデザインを学ぶ。3年のデザイナー経験を経て渡米。ニューヨークにてデザイン修行を重ねる。1991年 宮師雄一と共にタイクーングラフィックスを設立。音楽、ファッション、建築関連のグラフィックを中心に広告、CI、パッケージ等、多分野で活躍中。受賞歴はニューヨークADC 金賞及び銀賞、グッドデザイン賞 コミュニケーション部門賞、毎日デザイン賞他。ホームページアドレス <http://www.tycoon.jp/>



▲代表作は、表参道ヒルズ
ロゴデザイン(2006年)



地元の素材を 大工の技でしつらえるという精神

基壇部の煉瓦は旧荒川町坂町の煉瓦工場から。丸太材は村上市の山奥から伐り出された杉。和紙を貼ったステンドグラス、一人ずつ祈禱台を持つシンプルな椅子。決して潤沢ではなかった予算のなかで建築家は、土地柄をいかしたシンプルで素朴な教会を創りあげていきました。一歩足を踏み入れたら、そこは、あたたかでおネスティな空間。



アントニン&ノエミ・レーモンド設計

カトリック新発田教会

昭和41年(1966)に完成した教会はとくに聖堂が特長的。この地域にまったく例のない形は、祭壇を囲んだ全員参加の新しいミサ方式に従っているためです。また、聖堂の大空間を支える丸太と煉瓦が大変よく調和し、建築後40数年を経た現在も、構造や仕上げにまったく問題のない堅牢さが、すぐれた建築作品と評価されるゆえんです。アメリカ人の聖堂設計者は、日本の大工の高度な技量や煉瓦積みの技術に驚愕し、それを取り入れています。

- 土・日の見学のみ可能(見学はご予約の上お願いいたします。)
- ※宗教施設ですので、見学マナーと事前予約のルールを必ずお守りください。
- ☎0254-22-2046
- 新発田市中央町1-7-7(市街地マップ◎)

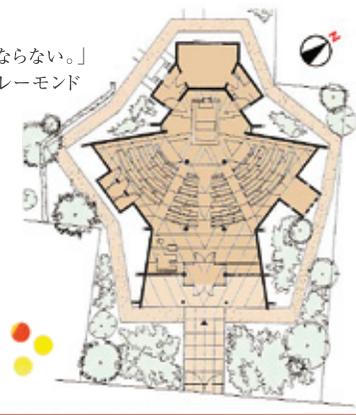


「建築はsimple、natural、economical、direct、そしてhonestでなければならない。」
建築家 アントニン・レーモンド



ミサには自由に参列できます。
カトリックとは「いつでも、どこでも、すべての人によって」信じられている信仰という意味で、ローマ教皇を中心とした最も長い伝統をもつキリスト教会です。信者の信仰生活に力を与え、訪れる人々の心を惹きつけてやまない文化財的な聖堂。私たちは自らの手で補修をするなど、未永く維持保存していけるようせつに願っています。ミサは自由に参列できますが、聖堂内のご見学は原則土日曜日、事前のご連絡をお願いします。

カトリック新発田教会 神父 佐藤 允広さん



Column

アントニン
&ノエミ・
レーモンド



カトリック新発田教会の聖堂の設計は、アントニン・レーモンド氏とノエミ夫人。彼らの日本建築界への貢献は大きく、教会の椅子、蜀台、窓の和紙デザインは夫人の作品。

写真提供:北沢 興一

Column

新発田で観る
内井昭蔵の
建築作品

建築家・内井昭蔵(1933-2002)は正教会のクリスチャンでもあり、祖父と父もそれぞれ正教会とその建築に関わる系譜にあります。市内には右写真のほか生涯学習センター、ボランティアセンターが昭蔵の作品。



新発田市立図書館(1983)



蒔谷虹児記念館(1987)



新発田市民文化会館(1980)

城主が眠る 藩主が眠る 新発田寺町



溝口秀勝侯の墓(宝光寺)

新発田藩主溝口家の菩提寺

廣澤山寶光寺

こうたくさん
ほうこうじ

新発田藩の初代藩主、溝口秀勝(1548-1610)は、尾張国溝口村の地侍の出身。1598年に豊臣秀吉の命令により、越後蒲原郡に6万石を与えられ、加賀大聖寺から家臣領民とともに入封。新発田城、城下町の建設、治水新田開発の基礎を築きました。曹洞宗「宝光寺」歴代藩主夫妻の墓に眠っています。境内の推定樹齢380年の枝垂れ桜は、徳川家光から寄進されたものと伝えられます。

- ☎0254-26-6789 新発田市観光協会
- 新発田市諏訪町2-4-17 (市街地マップD)



新発田重家の天地人

新発田因幡守重家(1546-1587)は、越後豪族「揚北衆(あがきたしゅう)」のひとつ、新発田家最後の城主。天正7年(1579)ころ、上杉景勝につかえていた新発田長教が病死したため、五十公野家の養子になっていた弟、重家が新発田家を継ぎました。長教の死去で、景勝の政治を仕切るようになったのは側近の直江兼続。重家が「御館の乱」で景勝について連勝するも恩賞なく、これを不満に重家は、天下統一を進めつつあった織田信長と結び、景勝と対立していきます。しかし、信長の攻撃で武田勝頼が自害し、景勝の命運も尽きたかというところで、本能寺で信長が明智光秀に討ちとられ、形勢は一気に逆転。天正15年(1587)8月から景勝は本格的に新発田攻勢をかけ、やがて10月25日に新発田城は落城、重家は敗死、7年越しの「新発田合戦」は新発田氏の滅亡で幕を下ろしました。新発田重家の法名は「菩提寺殿一声道可大居士」。後年、新発田藩主となった溝口氏によって、城下の「福勝寺」に供養塔が建てられました。



重家菩提寺の福勝寺山門と重家像



新発田因幡守重家の墓(福勝寺)

江戸時代そのままの風景
寺町にある宝光寺には、初代藩主・溝口秀勝侯の墓、溝口家10代までの墓が並んで建っています。江戸時代という安定した時期に、溝口家の10代を藩主に新発田藩は、城下町としてのまちの形状、道路、水路を整えました。現在の新発田には、その名残りの風景どころか、そのままの姿で残されています。



新発田市観光ガイドボランティア協会 会長
若林 利次さん

Column

お休み処 寺町 たまり駅

新発田のまち歩きを、いっそう楽しくする休憩所、交流と観光情報発信の場が「寺町たまり駅」です。城下町のお菓子文化を伝える和菓子とお茶で、一服してください。昔懐かしいアイス、おみやげ用のお菓子もあります。



「気軽ににお立ち寄りください」たまり駅の池田美枝子さん

Column

復活新発田 十二斎市 プロジェクト

越後でもっとも開催回数が多い定期市(月12回)「十二斎市」が、昔の新発田にありました。市内の大学も参加するプロジェクト実行委員会では、市のにぎわい復活、地域資源をいかしたまちづくりをめざし、チアリーダー部の学生によるパフォーマンスなども行います。





新発田藩の出城に熟成された元禄文化

- 開園時間: 午前9時～午後5時(4月～10月)
午前9時～午後4時30分(11月～3月)
- 休園日: 1～2月の水曜日(祝祭日の場合は開園、翌日休園)
12月28日～31日
- 入園料: 一般700円 小・中学生300円
- ☎0254-22-2659
- 新発田市大栄町7-9-32 (市街地マップ📍)



名園を守ったもう一人の庭師 田中泰阿弥

縣宗知(あがたのそうち)の指南下で造成された池泉廻遊式庭園は、昭和20年代、清水谷御殿から清水園に名を変え、新潟柏崎出身の庭師・田中泰阿弥(たなかたいあみ)によって修復されました。泰阿弥は銀閣寺など、京都の名園の修復を多く手がけた天才庭師。約10年にわたる修復期間に詠まれた泰阿弥の歌碑が、園内に残されています。

かくれたる東日本一の名園

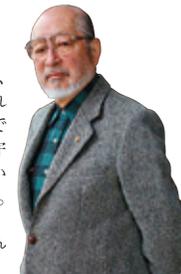
国指定名勝 清水園

新発田藩6万石(のちに10万石)溝口家12代、274年間にわたり統治されてきた新発田。新発田城を居城に、周囲他藩の力をおそれて主要街道筋に置かれた出城が、現在の「清水園」の場所でした。4代重雄の元禄6年(1693)に、遠州流の茶人であり幕府茶道方でもあった縣宗知が江戸から招かれ、造園されたのが「清水谷御殿」(のちに清水園)です。越後から東北にかけて類をみない、また京都や金沢の名園にもひけをとらないしつらいは、江戸元禄文化の舞台として、藩主や家臣らを、茶の湯や能楽の世界へいざないました。

散歩する度に感動があります。

私は何度となく「清水園」を散歩していますが、季節おりおりの美しさに、その度、打ちのめされています。この庭園はまさに日本文化の凝縮でもあると思います。この美しい庭園を大切に守り、後世へ伝えることが使命であるとも感じています。何度でも足を運んでいただきたい庭です。

北方文化博物館 館長 伊藤 文吉さん



足軽長屋



米蔵・酒蔵が郷土資料館に

越後は沢海の豪農、伊藤家の米蔵・酒蔵を五十公野から移築(沢海藩は慶長15年に新発田藩から分家)した建物を郷土資料館に。新発田藩関係の資料、越後阿賀北の考古や民俗などの資料を展示しています。



Column

弘化年製 大日本順路 明細記大成

いまに残るこの古地図は、弘化年間(江戸時代後期)につくられた貴重な品。折りたたみ式になっています。携帯しやすいガイドブックであり、旅の必需品だったのでしよう。日本全国の街道や航路、宿場を網羅しています。新発田藩には溝口侯、米沢藩には上杉侯の名が記されています。

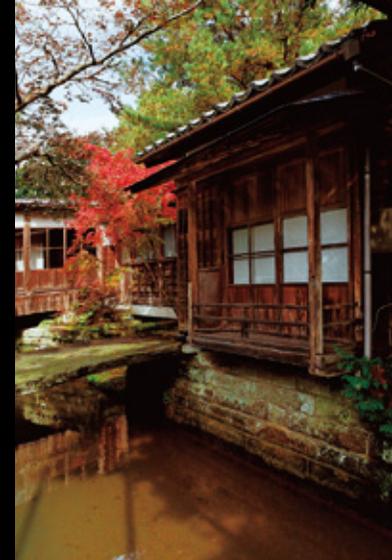
石泉荘を流れる 新発田川 豊かなる江戸時代の川筋



庭を流れる新発田川 明治からの姿をそのまま残す 登録有形文化財・登録記念物 石泉荘

「石泉荘(石崎家住宅)」は、新発田川の右岸にもと料亭の離れ座敷、左岸にはもと藩医の隠居所と伝えられる茶室が建っています。いずれも明治時代の建造で国の登録有形文化財に指定。意匠を凝らした石畳の道の奥、静かな佇まいの「石泉荘」では、国の登録記念物の庭を眺めながら、抹茶やお弁当をいただくこともできます。

- 開園期間:4月~11月 午前10時~午後4時
- 休園日:毎週火曜日、8月13日~15日
- ☎0254-22-3383 石泉荘(要予約)
- 新発田市諏訪町3-11-21 (市街地マップ📍)



名園を守り、心を潤おす、川という文化遺産

水路の美しいまち この風景を守り継ぐまち

江戸時代に藩主となった溝口秀勝侯が、新発田城築城など城下町の都市計画の際、新発田川が開削されました。戦略的な防衛のための堀、物資を運搬する水路、生活用水として、江戸から明治・大正時代にかけて新発田を支えるものでした。戦後、生活様式の変化で役割りは薄れていきましたが、現在も江戸時代の川筋は、ほとんど当時のまま残っています。市民のあいだで、新発田川を見直し守る活動も、おこなっています。



価値ある新発田川を失くしたくない

私たちは、新発田川の魅力を知ってもらおうと、いろいろな活動に取り組んでいます。例えば、水をきれいにするために掃除をしたり、浄化作用のある粗朶(そだ)柵を設置して菖蒲を植えたり。私は現在、横浜市に住んでいますが、このようなカタチで残っている川は、見られません。下水道になり蓋がされてしまいました。だから新発田川の貴重さを、いっそう感じています。

新発田川を愛する会 西海士 弘行さん



清水園



福勝寺裏の蔵(兄弟蔵)



カワド



公設市場



武庸橋



アンドリュース・フェルプス(写真家)
私は、Japan Todayのプロジェクトで、新発田に立ち寄りました。町を散策して、さりげなく残っている建物、行き交う人々の生活、新発田川沿いの風景に強く心を惹かれました。3日滞在中、オーストリアのリンツの展覧会に作品を出品する予定です。Andrew Phelps



舟入町 明治19年(1887)頃水路としての新発田川の掘削は初代藩主溝口秀勝の時に発し、現在に至ります。長い歴史の中、米運搬のための用水路、生活用水として使われていました。この写真は、その頃の貴重な写真です。



職人の技と心の継承

それは文化を守る誇りと
先人から渡された次代への責任

新発田 「職人協力」宣言

城下町として400年余の歴史の中で新発田は、鍛冶屋・染物屋・桶屋・漆屋・指物屋(さしものや)・麩屋など、多くの職人を育んできました。茶道を重んじた溝口藩の影響もあり、和菓子も盛んな街でもあります。昔から新発田人は、上質で美しいものを好み、物に対し妥協しないところがありました。そんな気風の中、職人同士が切磋琢磨し、技術はさらに洗練されたのです。その長きにわたり受け継がれてきた新発田の職人文化が、今、危機に直面していると感じた皆さんが、今こそ再び、職人同士が協力し合い立ち上がる時だと考え、新発田職人文化交流会を立ち上げ、次の世代に受け渡すことを目指しています。

職人の心、職人の声、そして小さな夢語り。



“間違いのない仕事”をやる、それに尽きます。

上杉ブリキ店

板金職人 上杉幸雄さん

おもに神社仏閣の銅板屋根工事をしています。昔の鬼瓦、雨どよ、銅板拭きが難しいです。雨や風をもらさないよう、基本を間違いなくやるのが大切。平成14年度に県知事表彰をいただき、驚きと同時に励ましになりました。修行を始めた終戦後と今は、時代も若い人の考え方も違うでしょうが、職人をめざす若者に技を伝えられたら、と思います。



すべてに心をそそぐ仕事、一生が勉強です。

高田美術刀剣商店

刀剣研師 高田成吾さん

戦前から続く店の3代目。祖父や父の仕事を見ているうちに、刀の美しさに惹かれ、自然と跡を継ぎました。サビをとる時、まず、刀をつくった人への尊敬の念、うちへ持ってきた人への感謝の気持ち、誠心誠意をもって刀と向き合います。今は実用品ではありませんが、先祖代々残っている刀を、供養のつもりで磨いて大事に保存していただきたいです。



染物をまちの文化に。職人の仕事を芸術の域まで。

泉屋染物店

染物師 山田真嗣さん

長男なので跡継ぎとして京都へ修行に出されました。好きな仕事だったので、そういうものと思っていました。北方文化博物館の伊藤文吉館長さんから、藍染めの蕪を描く機会をいただき、博物館で販売してもらったのが最初の仕事。嬉しかったです。この仕事は日進月歩。感謝の心を常に持ち、染物が芸術作品になるよう、頑張りたいと思います。



できるだけ長く続けたい、やりがいのある仕事。

工房 寿々蔵

土鈴職人 高井昭蔵さん・順子さん

土鈴は縄文時代から神々を招く楽器、魔除け・厄除け・身代わり鈴として信仰を集めてきました。今日では、鈴は「寿々」に通じる、めでたさや長寿。よく鳴る音は「よく成る」で、五穀豊稔・大願成就・家運隆昌・商売繁盛・病気平癒の祈りを込めて愛され続けています。土鈴を手にした方々が幸せになるよう、気持ちを込めて仕事に励んでいます。



Column

ふるさとしばた
食と職の
おまつり

城下町400年の「食文化」と「技能工芸文化」を見つめなおし、新しい新発田ブランドの確立に取り組んでいる新発田市。「ふるさとしばた食と職のおまつり」は、昔から受け継がれてきた伝統と技、食を通して、新発田を紹介するおまつりです。会場の職体験コーナーでは、だれでもいろいろな職人技を体験することができます。





千町歩地主を生んだ気候風土
そして今
からだと心に豊かな“食”へ



新発田市が考える 「食の循環」

「豊かな大地」を守るため、堆肥を活用した土づくりを行い、農薬や化学肥料に頼らない安全・安心な農産物を栽培します。収穫した農産物を直接、または加工して販売、消費者が購入しやすい仕組みをつくります。家庭では、その農産物を、栄養を考えた調理し、なるべく残さずいただきます。そして、調理くずや食べ残しの生ごみから堆肥をつくり、また土に還します。この一連の流れを、すべての市民が日々の暮らしの中でつくりあげ、活用することが「食の循環によるまちづくり」です。



「稲の花」をご存知ですか？

コシヒカリの開花は8月中旬ころ、朝9時から11時くらいまで。殻(えい)から白銀色のおしべがスーッと2本伸びて、黄色に変わると準備OK。パチッと音をたてて殻が割れ、めしべが前に出てきます。おしべの先の袋が破れて花粉が飛び散って受粉すると、おしべを外に残して殻はふたたびしっかりと閉じます。1時間30分ほどの生命のドラマ。受粉が終わると1ヶ月ほどかけて、かたい実になっていきます。

飯豊連峰、雪どけ水、肥沃な蒲原平野。
新発田は豊かな食料庫。

新発田の食の背景にある越後平野(蒲原平野)の広さは、東京都ほです。昔から、たっぷりの雪どけ水、よく肥えた土、忍耐強い気質の人々がグルメ県にいがたを代表する名産特産を、手塩にかけてはぐくんでいます。



米

米づくりに適した気候風土で育てられています。農薬や化学肥料を減らした、より安全で食味のよいコシヒカリにも力を入れています。



アスパラガス

菅谷や道賀地区などで栽培されています。春から秋まで長期間収穫され、収穫量は県内1位。良質の堆肥を使い、やわらかく甘く育ちます。



ねぎ

ブランド名「やわ肌ねぎ」は、その名の通り、やわらかく甘い評判です。地元では、刻みねぎに味噌を混ぜた、ねぎ味噌が定番。



なす

新発田特産の品種として、長なすタイプの「久保なす」、巾着タイプの「二王子なす」があります。



えだまめ

古来より加治川地区で作られてきたえだまめが「大峰かおり」です。これを食べると他のえだまめは食べられないと評判。



紫米

古代米「紫米(むらさきまい)」は、新発田市紫雲寺地区の“紫”から命名。黒紫色は、赤ワインで話題になったアントシアニン系色素。



越後姫(いちご)

酸味と糖度のバランスが絶妙で、新潟を代表するブランドいちご。可憐でみずみずしい新潟のお姫様のような、ということから命名。



洋なし

紫雲寺砂丘を利用して約20年前から栽培。現在は「ル・レクチュエ」「マルグリット・マリエラ」「ラ・フランス」などが生産されています。



新発田の銘酒

豊富な雪どけ水は良質の米を育て、雪国の農閑期は粘り強い気質の蔵人を生み出した。酒づくりに適した気候。伝統の酒がここにあります。



遠き年月を経て
今なお語り継がれる
元禄に散った魂の拍動。

新発田が生んだ赤穂浪士、堀部安兵衛を偲んで 義士祭

赤穂浪士のなかでもひとときわ名声を誇る堀部安兵衛は、ここ新発田の地で生まれ、そのロマンに満ちた壮大な生涯の礎を築きました。堀部安兵衛武庸を追想し顕彰する市民の会として、百年近い歴史を誇る武庸会(たけつねかい)があります。安兵衛の父が眠る長徳寺では、毎年12月14日、武庸会が主催して義士祭が行われ、討ち入り装束をまとった少年少女剣士が市中を練り歩きます。山門脇に建つ義士堂もこの日のみ一般公開。ずらりと並んだ四十七士の木像とみごとな天井画が、幻想的に揺らぐろうそくの灯りに照らされ、300年余りの時を越えて義士たちの熱い想いを今に伝えてくれます。

- 開催日:12月14日 義士堂の一般公開もこの日に限ります。
- ☎0254-26-6789 新発田市観光協会
- 新発田市大栄町2-7-22(市街地マップ①)



お祭り日和の新発田へ、どうぞ。



1万6千人の舌が選ぶ“征夷大將軍”は 城下町しばた全国雑煮合戦

地元飲食店を中心に、北海道から広島まで、各々ふるさとの雑煮を旗印に掲げた雑煮合戦イベント。特色ある多彩な雑煮を格安で味わえとあって、年々人気が高まっています。物産販売なども開催。

- 開催期間:1月中旬
- ☎0254-22-2757 新発田商工会議所 青年部担当
- 新発田城址公園(市街地マップ④)



雪の中、裸で押し合い、厄を払う神事 赤谷どんづき祭り

どんづきの語源は「胴突き」。その名の通り、はちまき・ふんどし・足袋の姿で境内に集まり裸で押し合います。厄年の男衆などが心身を清め、厄を払う伝統行事。五穀豊穡・家内安全・身体健康などを祈ります。

- 開催期間:2月中旬
- ☎0254-26-6789 新発田市観光協会
- 上赤谷鎮守山神社(市広域マップ⑩)



江戸から昭和、そして現代の着物を一堂に展示 雪の越後の花嫁衣裳

新発田をはじめ、きたえちごの旧家では、娘たちに渡す着物を大事に桐箆箆にしまっておく習慣がありました。城下町が美しい雪景色になるころ、今昔物語を紡ぎだす豪華な花嫁衣裳が、市内各所で展示公開されます。

- 開催期間:2月下旬～3月上旬
- ☎0254-22-3101 新発田市産業企画室
- 新発田中心市街地



月岡温泉どんと祭り

伝統の「どんと祭り」に、世界の鍋料理や地酒を堪能できる「世界の鍋グランプリ」が加わって、さらに楽しいイベントに。クライマックスは、さらし姿の若衆がたいまつを掲げて温泉街を駆け抜け、会場内の井桁に祈願成就の願いを込めて火を灯します。夜空に燃え上がる炎が幻想的な世界を描き、新発田に春を呼びます。

- ☎0254-32-3151 月岡温泉観光協会
- カリオンパーク、月岡温泉街(市広域マップ⑦)



滑るのが楽しいファンタジックなコースレイアウト ニノックス スキー場

二王子岳(標高1420m)にあるスキー場。市街地から車で約20分、都市近郊型スノーパークとして人気です。ビギナー向けの広い緩斜面コース、最大斜度30度の山頂からの急斜面コース、スノーボード全面滑走も可能。

- ☎0254-29-3315 ニノックス スキー場
- 新発田市上三光大平国有林(市広域マップ⑥)



シバ旅マップ

歴史旅、アート旅、グルメ旅。このまちは一年365日、散策日和です。



市街地マップ

■ 無料駐車場 ■ 有料駐車場



A 新発田城 (P.2)
■ 新発田市大手町6



B 落谷虹児記念館 (P.14)
■ 新発田市中央町4-11-7



C カトリック新発田教会 (P.19)
■ 新発田市中央町1-7-7



D 寶光寺 (P.18-19)
■ 新発田市諏訪町2-4-17



E 寺町たまり駅 (P.18)
■ 新発田市諏訪町2-3-28



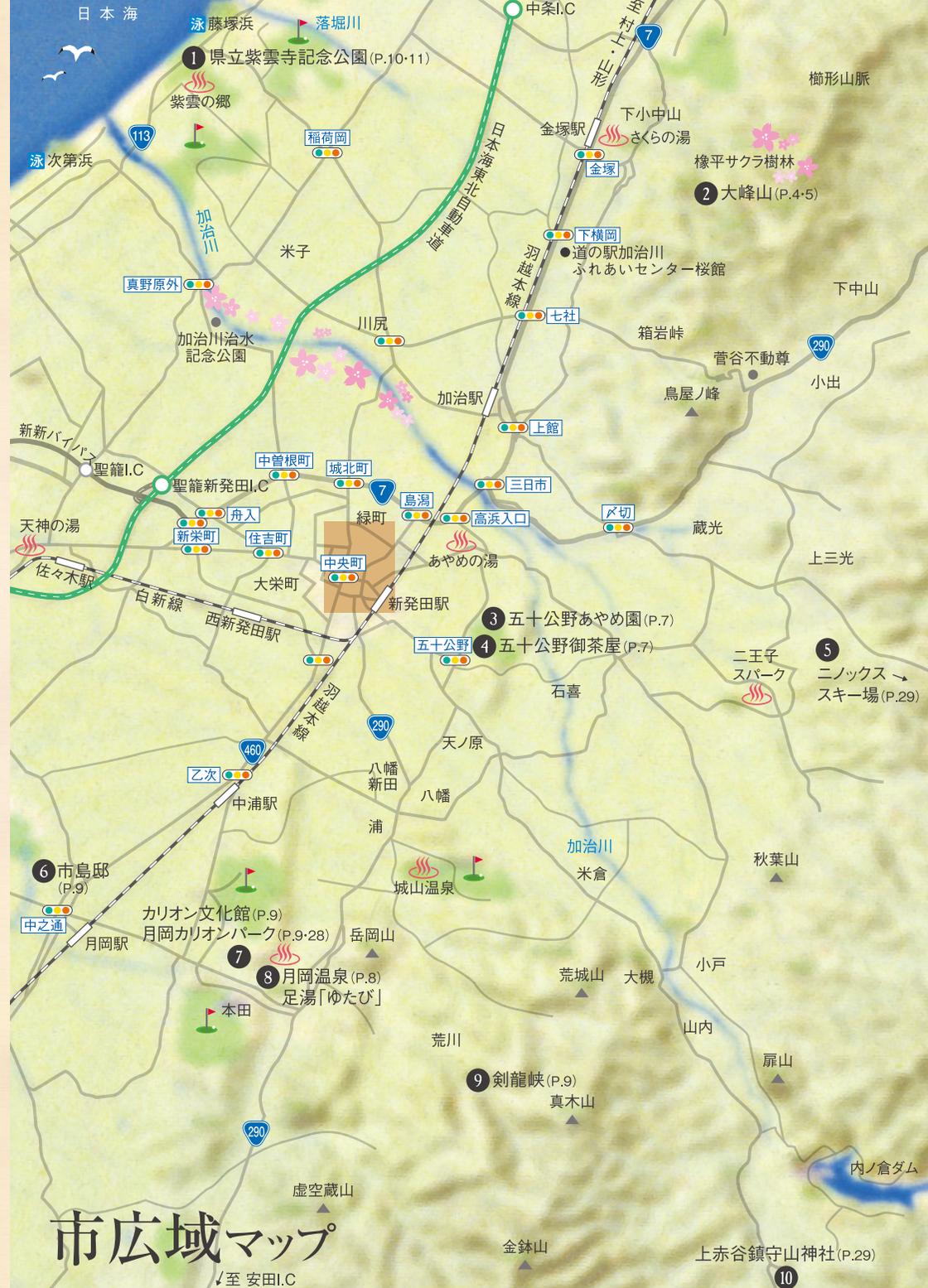
F 清水園 (P.20-21)
■ 新発田市大柴町7-9-32



G 石泉荘 (P.22-23)
■ 新発田市諏訪町3-11-21



H 長徳寺 (P.28)
■ 新発田市大柴町2-7-22



市広域マップ

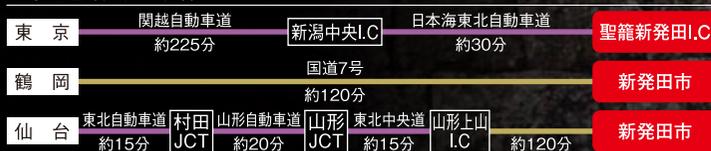
至 安田I.C



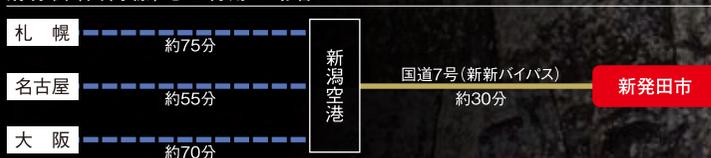
JRをご利用の場合



お車をご利用の場合



飛行機(国内線)をご利用の場合



■お問合せ先 編集・発行

新発田市産業振興部観光振興課 TEL.0254-22-3101 FAX.0254-26-8585
〒957-0053 新潟県新発田市中央町3-7-2
<http://www.city.shibata.niigata.jp/>

新発田市観光協会 TEL.0254-26-6789 FAX.0254-26-5031
〒957-0053 新潟県新発田市中央町3-7-2
<http://shibata-info.jp/>

表紙撮影地 市島邸

新発田城の石垣(とても美しいこの石垣は、石同士を隙間なく整形して積み上げる“切り込みハギ”という工法が用いられています。)